

令和4年度 東京都立調布南高等学校 学校経営計画

校 長 荒井 篤

I 目指す学校像

1 教育目標

【校訓】 至誠 創造 力行

- 【教育目標】
- 1 明朗にして、心豊かな人間を育てる。
 - 2 知性ある、想像力豊かな人間を育てる。
 - 3 自主性のある、個性豊かな人間を育てる。

2 スクール・ミッション

3つの校訓「至誠」「創造」「力行」に基づく資質・能力を育成し、自主的・積極的に活動することができる生徒、高い目標に挑戦するために、自ら課題を見つけ解決することによって社会の中で活躍することができる生徒、国際的な視野でコミュニケーションを取ることができる生徒を育成します。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

本校は、3つの校訓に基づく資質・能力の育成を目指します。具体的には、「至誠」（生きる力・態度の育成）に基づく「協働力」「コミュニケーション能力」「多様性・他者理解力」、「創造」（思考力・判断力・表現力の育成）に基づく「発想力」「主体性」「論理的思考力」、「力行」（基礎的な知識・技能の習得）に基づく「基礎的な学力」「実践力」「課題解決力」を生徒に身に付けさせます。

(2) カリキュラム・ポリシー

本校は、探究活動、各授業における主体的・対話的で深い学び及び ICT 機器の活用等で学習環境を整え、生徒の学力の向上を図ります。又、課題研究を基盤とした取組により、自らの将来を考えさせ、生徒の進路実現を図ります。さらに学校生活全般をとおして、生徒の人権感覚の涵養及び自身の健康を意識した体力向上を目指します。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は、学習、学校行事、部活動に努力したいと考えている、元気のよい生徒の入学を期待しています。特に、何事にも積極的に取り組む中で、自ら課題を見つけ、それを解決していきながら自信をつかみたいと思っている生徒、中学生時代にリーダーとしての経験があり、何事にも頑張ることのできる生徒の入学を期待しています。

II 中期目標と方策

本校は、これまで「重点支援」や「部活動推進指定校」、「進学指導研究校」の指定を受けた。また、「多摩地区の都立高等学校等と国公立大学連携進学協議会」や「普通科中堅校ネットワーク事業」などの該当校として学習指導の改善と進学指導の充実、部活動の活性化を進めてきた。こうした取組を踏まえ、生徒が学習や特別活動、部活動などに全力を尽くし、自らの進路希望を実現し、調南生であることを誇りにできる学校を目指す。

そして、豊かな教養と確かな学力を身に付け、国公立大学や難関私立大学など高い目標に向かって進路希望を実現できるよう、また、到来する新しい社会の中で一人一人が自己実現を果たし、社会に貢献することができる生徒を育成するため、次の方策を中期的な展望として具体的に取り組んでいく。

- 1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、観点別評価の導入による「指導と評価の一体化」の実現へ向けた授業改善を図る。 【学習指導】

- 2 ICT活用委員会・情報科を中心としたオンライン学習の充実など、学習におけるデジタルトランスフォーメーションを推進し、学習の在り方や、Society5.0時代に対応した指導方法を研究し、授業力を高める。【学習指導】
- 3 入試や模擬試験、定期考査等の組織的な分析、教科会を中心としたカリキュラムマネジメント、教員相互の授業見学の実施など、教科ごとの授業研究を充実させ、授業を改善する。【学習指導】
- 4 土曜授業や習熟度別授業、長期休業日の講習・補講などを実施し、生徒が意欲的に取り組める授業を展開して、目標や希望に応じた進路実現を目指す。【学習指導・進路指導】
- 5 組織的、系統的な課題研究の取組や探究型学習、進路ガイダンスなどをキャリア教育に活かし、個に応じた進路指導を実践する。【進路指導】
- 6 組織的、計画的に英語の4技能検定などに向けた取組や課題研究の充実を図り、グローバルな視野から社会の中でチャレンジできる力を身に付けさせる。【学習指導・進路指導】
- 7 進路情報や指導内容の共有化による進路体制の構築と三者面談や保護者会、保護者対象の進路講話、保護者への情報の発信等、家庭と一体となった進路指導を進める。【進路指導】
- 8 挨拶の励行や遅刻指導、情報モラルなど共通化した指導内容によりマナーやルールを守る指導の徹底を図り、自他の人権意識を高め、社会規範意識を育てる。【生活指導】
- 9 学校行事や委員会活動、部活動への加入を奨励し、組織的な支援体制により成功体験を積み、主体性や協調性を高める。【特別活動、部活動】
- 10 学校保健計画の策定により、学校保健委員会を中心に、教科、分掌、学年で共通理解を進め、新型コロナウイルス感染防止の徹底と、心や身体の健康と体力の向上を図る。【健康づくり】
- 11 関係機関や特別支援学校等と連携を図り、個に応じた特別支援教育の充実を進める。【特別支援教育】
- 12 ホームページの内容や更新の充実、部活動体験、外部の学校説明会への参加、中学校への出前授業や説明会などを計画的に進め、組織的な募集対策を展開する。【募集、広報】
- 13 生徒会や部活動等の地域行事への参加や小、中学校、特別支援学校等との交流などを進め、地域に根付いた活動を推進する。【地域交流】
- 14 ライフ・ワーク・バランスの推進として効率的な分掌、委員会等の運営を目指し、組織的な校務運営、課題の調整、整理等による業務縮減や、学校評価を活かした組織運営により、学校運営の改善を図る。【学校経営】
- 15 経営計画や予算編成指針に基づいた予算編成、学事、施設管理、学習環境の整備、募集対策など経営企画室の学校経営参画を推進する。【学校経営】

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

- 1 「学習指導」 目標を実現する教科指導の推進
 - (1) 定期考査や家庭学習時間調査などの分析、教科会を中心としたカリキュラムマネジメント、教員相互による授業見学による授業改善を進め、指導方法や授業内容の充実を図る。
 - (2) 各教科課題や復習・予習の励行、小テストの実施など意図的・計画的に実践し、自主的に学習に取り組める習慣を身に付けさせる。
 - (3) 各教科で言語活動の充実を図り、司書教諭を中心に学校司書とも連携し読書活動を推進する。
 - (4) 土曜授業や習熟度別授業を展開し、生徒一人一人が高い目標に挑戦できる学力の向上を図る。
 - (5) 組織的にICTを活用した授業研究や主体的・対話的で深い学びの実践を進め、新学習指導要領実施に向けた取組を推進する。
 - (6) ICT活用委員会や情報科を中心として、オンライン学習による指導方法の研修の充実を図り、実践を積み重ね改善を進める。

2 「進路指導」 社会の中で活躍、挑戦できることを目指した進路指導

- (1) 進路希望の100%実現に向け、分掌、学年教科の連携を一層強化した組織的な指導と、「進路のしおり」や進路通信「M-P R I D E」などを活用した系統的な進路計画に基づいた指導を推進する。
- (2) 組織的に課題研究や探究型学習を展開し、キャリア教育の充実を図る。
- (3) 進路希望調査や模擬試験の分析などから進路適性を的確にし、個に応じた進路指導を推進する。
- (4) 英語4技能検定などに向けた取組を充実させ、グローバルな視野に立ち、社会の中で挑戦できる力を身に付けさせる。
- (5) 進路指導部が主体となり、長期休業期間中の講習・補習を組織的・計画的に実施する。
- (6) 保護者会や保護者向け進路説明会や講話、三者面談などの実施により、保護者との情報の共有化を図り、家庭との連携を深めた指導を推進する。

3 「生活指導」 社会規範の定着と自主性の育成

- (1) 生活指導指針に基づき指導内容の共通化を図り、学校生活のあらゆる場面で時間を意識した行動の徹底を図り、身だしなみなどは社会に出てから困らないマナーの理解を深めさせるよう、年間を通して計画的・組織的に指導をする。
- (2) 人権尊重の観点から、家庭とも連携して、適切に情報通信機器を使用するための情報モラルの育成を図る。
- (3) 朝の校門での挨拶指導をはじめ、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。
- (4) 具体的な物品整理や管理方法を示し、貴重品やスマートスクール端末の管理も含めて、自己管理能力を高める。
- (5) いじめ等に関する情報については、学校生活における生徒観察、分掌部会、学年会などを通してささいなことでも共有し、アンケートも活用して早期発見に努める。いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織的に迅速に対応し解決を図る。
- (6) 自殺防止に向けた取組を徹底するために、生命の大切さを伝え、連休前後や長期休業日前後などを重点的に、生活指導部や学校保健委員会、担任間で生徒の様子など情報を共有する。また、スクールカウンセラーや外部機関なども積極的に活用する。

4 「特別活動・部活動」 社会性を育む特別活動の推進

- (1) 生徒の意欲的な取組を支援し、体育祭、文化祭などの学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動、部活動などを通して主体性、協調性等を育み、学校生活の満足度を高める。
- (2) 指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づいた部活動運営と95%の入部を目指して、部活動の加入を奨励し、運動部文化部ともに活発化を図る。
- (3) 部活動のガイドラインに沿った活動で、充実した部活動と家庭学習のバランスを自己管理できるように指導し、退部することなく部活動をやりきる力を育む。
- (4) 部活動保護者会等を通して、保護者への情報提供と連携を図り、生徒一人一人が高い目標に向けて集中して取り組めるようにする。
- (5) オリンピック・パラリンピック教育を継続して推進することで「学校2020レガシー」を構築し、ボランティアマインド、障害者理解を高めさせ、国際感覚や人権感覚を養う。

5 「体力向上と健康づくり」 環境整備と健康・安全教育

- (1) 授業や特別活動、部活動等において、生涯に渡りスポーツに親しむ態度を育てるとともに、体力テストの結果を活用した基礎体力向上に向けた取組を推進する。
- (2) 健康講話や交通安全教室等の実施により、主体的に健康・安全に留意する習慣を身に付け、社会生活の中での実践を促す。
- (3) 避難訓練や地域防災訓練等、外部機関とも連携し、自助・共助の精神を養い、防災に関する

実践力を高める。

- (4) リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰りなど学校生活における環境を整理・整頓し、校内美化の徹底を進める。

6 「広報・募集活動」 意図的計画的な広報活動

- (1) 学校ホームページのリニューアルを図り、内容を充実させ、リアルタイムで発信する。
(2) 体験授業や学校見学会、部活動体験等を計画的に開催し、全校体制で本校についての理解を深めてもらうための活動を推進する。
(3) 区や市等の主催による外部の説明会、中学校への出張説明などを積極的に活用する。

7 「地域連携」 地域に根付いた活動

- (1) 生徒会や部活動などを中心にボランティアマインドを醸成し、地域の小・中学校、特別支援学校等の行事、地域のイベントなどへの参加を進める。
(2) 公開講座等の実施により地域との交流を深める。

8 「学校経営・組織体制」 組織としての課題対応

- (1) 主幹教諭を中心に各分掌、学年の課題を調整、整理し、企画調整会議の機能を活性化させ課題解決に取り組む。
(2) 体罰に頼らない指導や個人情報の保護、流出防止など、分掌や学年、教科が組織的に対応して、服務事故の未然防止を徹底する。
(3) 教科や委員会等組織内の調整等、会議の効率化などを図り、業務縮減に向けた取組を推進し、勤務状況の確認と、有給休暇等の取得などを進め、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す。
(4) 教員と経営企画室との連携を密にして共通理解を図り、自律経営予算や学校徴収金の適正な執行、施設の管理や整備、学事、募集対策など、効果的・効率的な経営参画を進める。
(5) 関係機関や近隣の小・中学校、特別支援学校との情報の共有化など連携を深め、組織的な特別支援教育を推進する。

IV 重点目標と方策

○ 学校評価 生徒の満足度

「学習指導」 85.0% 「特別活動」 85.0%

○ 学校評価 保護者の満足度

「学習指導」 85.0% 「学校行事」 85.0%

○ 進路決定率 90.0%以上

国公立大学及び難関私立大学合格者 20人

GMARCH合格者 100人

○ 家庭学習時間（自習室等を含む）

1、2学年 90分以上

3学年 120分以上

○ 長期休業中の講習・補習講座数 60講座

受講延べ人数 2,000人

○ 学校見学会来校者（オンライン含む） 延べ 1,500人以上

○ 学校説明会来校者（オンライン含む） 延べ 1,500人以上

○ 部活動加入率 95%以上

○ 都大会、コンクールでベスト32相当以上 3部

○ ホームページの更新回数 100回以上

○ 外部での募集に向けた広報活動、説明会 5回以上